

中野区議会議員

山内あきひる

区民により添うやさしい中野

活動レポート 8号

令和7年(2025年)秋号

発行：中野区議会自由民主党議員団・東京都中野区中野四丁目11番19号10階

ごあいさつ

第3回定例会では、子どもの居場所、自殺対策について質疑致しました。どちらも当事者が声を上げにくい課題です。これからも声なき声を届けていけるよう取り組んでまいりますので、今後とも温かいご支援をよろしくお願ひいたします。



Q

自殺対策について

改正自殺対策基本法で子どもの自殺対策や学校の責務が明記され施策拡充が図られた。中野区でも令和6年に57名が自殺、20代が最多です。区はこの要因をどう分析していますか？

answer 自殺の原因は多様であり、共通要因としてはコロナ禍による社会経済環境の変化がある。若年者では就学・就労状況、女性では雇用環境などが影響している。

Q

自殺は若年層や女性、精神疾患を抱える人が高リスクで、未遂者は再企図の危険が大きい。改正法の趣旨を踏まえ、近隣区と区境を越えた医療・福祉・警察等の広域連携体制を構築し、迅速かつ継続的支援を制度化すべきでは？

answer 学識経験者、医師会、警察、福祉関係者、行政機関などで「中野区自殺対策審議会」を設置し、計画策定や事業の評価・改善点を幅広い視点から審議している。広域的な連携体制の構築についても、課題として認識しており、先進事例を参考に充実を図っていく。

Q

中野区のゲートキーパー養成は累計1,200人に達するが、自殺増加を踏まえ拡充と継続支援が必要。研修や連携強化に加え、保護者への周知・参加促進を図るべきでは？

answer 子どもへの自殺対策が重要性は、教育委員会とも共有しており、今年度より一部の教職員を対象としたゲートキーパー養成講座の試行を予定している。今後開催するゲートキーパー養成講座の周知・広報についても、教育委員会と連携を図っていく予定です。

Q

災害時は孤立や喪失で自殺リスクが高まるため、国際的に標準のPFAを中野区も避難所運営に導入し、早期支援につなげる仕組みを制度化すべきでは？

answer 区は、災害時の自殺リスクとPFA（心理的応急処置）の重要性を踏まえ、避難所運営マニュアルへの手順明記や実施体制の整備について連携して検討する。

Q

用語解説

改正自殺基本法

一部を除き令和8年4月1日に施行される。特に子どもの自殺防止に向けた施策の強化が盛り込まれた。

ゲートキーパー

自殺のサインに気づき、声をかけ、話を聞き、必要な支援機関につなげ、見守るひとのこと。

PFA

深刻な危機的出来事に見舞われた人に対して行う、人道的、支持的、かつ実際的な支援のこと。
心理的応急処置。

子どもの居場所について

**Q**

中野区の子育てひろばは徒歩圏整備方針に基づくが、人口分布や需要と乖離し、過密地域で利用困難・過疎地域で稼働低下が生じている。実態を踏まえた柔軟な整備方針導入をすべきでは？

Q

answer 区は将来人口推計や在宅率を基に子育てひろばの需要を算出しており、沼袋地域では令和8年4月開設に向け準備中。今後、新たな需要や課題が生じた場合には対応を検討する。

Q

現行の徒歩圏基準では区境部に子育てひろばがなく利用困難な地域が生じ、公平性に課題がある。他区の出張型・移動型施策を参考に、中野区も空白地域を補完する柔軟な支援導入をするべきでは？

answer

現在、児童館及び事業者による子育てひろばがないエリアについては、地域の現状やニーズを把握し、効果的な実施方法を検討する。

Q

中野区の子育てひろばは26箇所で展開し年間延べ約19万人が利用するが、混雑や感染症流行で利用困難が生じている。各施設の混雑状況をスマホ等でリアルタイムに確認できる仕組み導入を検討しては？

answer

児童館や福祉センター等で子育てひろばを実施しており、利用可能人数は施設規模により異なり混雑する場合もある。現在は施設への問い合わせで確認しているが、今後は混雑状況を簡単に把握できる仕組みの導入を検討する。

Q

中野区の子育て関連施設案内は紙やWebに限られ、情報が分かりにくく利用者に負担がある。利便性向上のため、一覧化した紙媒体と直感的に使えるオンライン情報提供システムの構築をすべきでは？

**answer**

区内には多様な子育て関連の居場所があり全体像が分かりにくいため、利用者が容易に情報を得られるよう、一覧化や情報提供のシステム化を検討する。

Q

子育てひろば事業は満足度が高い一方、施設ごとの評価指標がなく契約判断が不透明である。特色や運営状況を踏まえた評価基準を設け、事業改善や契約判断に活用すべきでは？

answer

8か所の子育てひろばについて利用者アンケートで満足度を把握し運営改善に活用している。今後は運営状況を確認し、重大な支障が改善されない場合には契約継続や次年度契約の可否を判断する基準の設定を検討する。

Q

中野区の学童クラブは42箇所あるが地域偏在により入所困難や長距離通所が発生している。閉鎖区有施設や空き民間物件を活用し、安全で身近な居場所確保を図るべきでは？

answer

希望する学童クラブに入れず他学区に通う児童もいるため、児童や家庭が安心して利用できるよう、既存施設の活用を含め効果的な対応策を検討する。



用語解説

子育てひろば

乳幼児と保護者の方などがのんびり過ごしたり、同年齢のお子さんと遊ばせたりすることができます。また、乳幼児向けのおもちゃや絵本なども備えてあります。子育てのことで悩んだり迷ったりしたとき、同じ子育て仲間と気軽におしゃべりしながら、情報交換することもできる場所。

子育てひろば事業

乳幼児とその保護者が気軽に集える場所を提供し、交流を深めたり、子育ての相談をしたりできる事業 例) 児童館、すこやか福祉センター、子育てひろば等。

学童クラブ

放課後に家庭で保護を受けられない児童を対象とした、放課後の遊び場や生活の場。小学校や児童館に併設された「区立学童クラブ」と、専門の事業者が運営する「民間学童クラブ」があります。

